

# JNTO



Japan. Endless Discovery.

# 国際観光白書

世界と日本の国際観光交流の動向

# 2010



編著:日本政府観光局(JNTO)

発行:財団法人国際観光サービスセンター(ITCJ)

2010年版

# JNTO 国際観光白書

## 世界と日本の国際観光交流の動向

# はじめに

## ～「JNTO 国際観光白書 2010 年版」の刊行にあたって～

2009 年は、世界の国際観光客到着数が前年比 4.2% 減の約 8 億 8 千万人に留まり 6 年ぶりに減少しました。また、2009 年の訪日外客数は、過去最高を更新した 2007 年、2008 年（共に 835 万人）と比べて大きく減少し、679 万人という結果に終わりました。2009 年は、世界的な景気低迷や円高の進行に加えて、新型インフルエンザの流行が追い討ちをかけたことから、韓国、台湾など主要市場からの訪日客が大幅に減少し、訪日外客数全体を大きく引き下げました。2009 年 11 月以降、訪日外客数は回復に転じ、2010 年は、好調な経済や訪日個人観光査証の発給要件緩和措置などを背景とした中国人観光客の大幅増などに支えられて、本書発行時（2010 年 9 月）に至るまで、訪日外客数は好調に推移しています。

2010 年は、2003 年より開始されたビジット・ジャパン・キャンペーンの「訪日外客 1,000 万人」の目標達成年です。2010 年を「ビジット・ジャパン・イヤー」と定め、日本政府観光局（JNTO）と観光庁が一体となって、地方自治体や民間事業者の方々のご協力をいただきながら、目標達成に向けて様々な事業を展開しています。また、2010 年を「Japan MICE Year」と定め、国際会議やインセンティブ旅行の誘致も強化しています。

同時に 2010 年は、「観光」が 21 世紀の国づくりに資する新成長戦略の柱の一つであることが閣議決定され、「訪日外国人 3,000 万人プログラム」というさらに高い目標（2013 年に 1,500 万人、2016 年に 2,000 万人、2019 年に 2,500 万人、将来的には 3,000 万人）に向かってスタートした節目の年でもあります。観光庁によって、訪日外客を誘致するためのキャッチフレーズが、「Yokoso! Japan」から「尽きることのない感動に出会える国、日本」という意味の「Japan. Endless Discovery.」に刷新され、アジア諸国でも人気のアイドルグループ「嵐」が「観光立国ナビゲーター」に起用されるなど、新しい取り組みが始まっています。2010 年度から、マレーシア、インド、ロシアが訪日旅行誘致活動の新規重点市場に格上げされました。また、2011 年度には、訪日客の伸びが大きいイタリア、スペインと、旅行支出額が高い湾岸諸国（アラブ首長国連邦、サウジアラビア）の重点市場化が検討されています。

「JNTO 国際観光白書 2010」は、1997年の創刊号から数えて14回目の発行となります。今年版も最新の国際観光動向をお届けできるよう、発行直前まで最新情報の収集・掲載に努めました。第一章「世界の国際観光の動向」、第二章「日本の国際観光の動向」、第三章「インバウンド促進に向けたJNTOの取り組み」、第四章「日本と諸外国との国際観光交流の状況」という四章立てとし、JNTO 海外事務所の生の情報に基づき、内容の充実に注力しました。本書が皆様の国際観光へのご理解、訪日外客誘致活動への取り組みの一助となること、また本書を通じて皆様にJNTOの事業活動をご理解いただくことを願っております。

2010年9月  
日本政府観光局 (JNTO)

# 目次

<b>第一章 世界の国際観光の動向</b> .....	<b>1</b>
1. 世界全体の国際観光の動向 .....	1
2. 世界各地の国際観光の動向 .....	4
(1) アジア・大洋州（オセアニア） .....	4
(2) 米州（南北アメリカ） .....	5
(3) ヨーロッパ .....	6
(4) 中東 .....	8
(5) アフリカ .....	9
3. 世界各国（各市場）の国際観光の動向 .....	10
(1) 国際観光客到着数 .....	10
(2) 国際観光収入 .....	13
(3) 国際観光支出 .....	16
4. 世界の観光産業の経済規模 .....	19
(1) 世界の観光産業の規模 .....	19
(2) 輸出商品としての国際観光 .....	20
5. 観光関係の国際機関 .....	21
コラム 世界の国際観光の潮流（1960年代から2009年まで） .....	25
<b>第二章 日本の国際観光の動向</b> .....	<b>30</b>
1. 訪日外国人旅行（インバウンド）の状況 .....	30
(1) 概況 .....	30
(2) 目的別に見た訪日外客数 .....	33
(3) 月別に見た訪日外客数 .....	35
(4) 訪日外客の属性 .....	36
(5) 訪日外客の滞在日数 .....	37
(6) 国籍別に見た訪日外客数 .....	39

コラム 外国人の訪日旅行の潮流（1960年代から2009年まで）	66
2. JNTO 調査から見た訪日外客の動向	71
JNTO 訪日外客訪問地調査 2009	71
3. 日本人海外旅行（アウトバウンド）の状況	83
(1) 概況	83
(2) 日本人海外旅行者の属性	85
(3) 主要国・地域別に見た日本人訪問者数	87
コラム 日本人海外旅行の潮流（1960年代から2009年まで）	91
4. 国際旅行収支の状況	95
5. コンベンションの開催状況	99
(1) 世界における国際コンベンション開催状況	99
① 概況	99
② 大陸別開催状況	101
③ 国別開催状況	102
④ 都市別開催状況	103
(2) 日本における国際コンベンション開催状況	105
① 国際コンベンション開催件数と過去10年間の推移	105
② 月別開催状況と外国人参加者数	106
③ 都市別開催状況	107
④ 規模別国際コンベンション開催件数	108

<b>第三章 インバウンド促進に向けた JNTO の取り組み</b>	<b>109</b>
1. JNTO の活動概要	109
2. ビジット・ジャパン・キャンペーン (VJC) および訪日外国人 3,000 万人プログラムへの参画・貢献	111
(1) VJC の概要	111
(2) 訪日外国人 3,000 万人プログラム（「訪日旅行促進事業（ビジット・ジャパン事業）」の概要	112
(3) 訪日旅行促進事業（ビジット・ジャパン事業）の推進体制	113
(4) 市場ごとの取り組み	113

①韓国	113
②台湾	113
③中国	114
④香港	114
⑤タイ	115
⑥シンガポール	115
⑦豪州	115
⑧米国	116
⑨カナダ	116
⑩英国	117
⑪フランス	117
⑫ドイツ	117
<b>3. 外国人旅行者訪日促進事業</b>	<b>118</b>
(1) 海外メディアを通じてのパブリシティ活動	118
(2) インターネットによる情報発信	121
(3) 訪日ツアーの開発・造成・販売支援	125
(4) 世界の主要旅行見本市などへの出展	132
(5) 訪日教育旅行の促進	138
(6) SIT 対策	140
(7) 各国との観光協議への参画	141
<b>4. 国際コンベンションなどの誘致・開催支援事業</b>	<b>142</b>
(1) 見本市への出展参加、海外におけるセミナーの開催	142
(2) 国際会議およびインセティブ旅行誘致事業	143
(3) 国際会議キーパーソン招請事業 (Meet Japan 2010)	144
(4) インセンティブ旅行・キーパーソン・グループ招請事業	144
(5) 国内における国際会議開催支援事業	145
(6) 国内における研修・人材育成事業	145
(7) 交付金事業	145
<b>5. 訪日外客の受け入れ体制整備支援事業</b>	<b>147</b>
(1) 訪日外客に対する情報提供事業	147

(2) 受け入れ体制整備の支援 .....	148
(3) 個人旅行者の利便性の向上に資する事業 .....	148
(4) 通訳案内士試験の実施 .....	149
6. 調査・研究事業 .....	150
(1) 「JNTO 国際観光白書 2010 ―世界と日本の国際観光交流の動向―」 (2010年9月発行) .....	150
(2) 「JNTO 日本の国際観光統計 2009年(平成21年)版」 (2010年7月発行) .....	150
(3) 「JNTO 訪日外客訪問地調査 2009」 (2010年7月発行) .....	150
(4) 「JNTO 訪日外客消費動向調査 2007-2008」 (2009年3月発行) .....	151
(5) 「JNTO 訪日旅行誘致ハンドブック 2007/2008 <総合編>」 (2008年3月発行) .....	151
(6) 「JNTO 訪日外客実態調査 2006-2007 <満足度調査編>」 (2008年3月発行) .....	152
7. 海外観光宣伝ツールの制作・配布 .....	152

<b>第四章 日本と諸外国との国際観光交流の状況</b> .....	<b>154</b>
概説 .....	154
(1) 韓国 .....	157
コラム .....	180
(2) 台湾 .....	181
コラム .....	198
(3) 中国 .....	200
コラム .....	222
(4) 香港 .....	224
コラム .....	242
(5) タイ .....	244
コラム .....	260
(6) マレーシア .....	262



(7) シンガポール	277
コラム	298
(8) インド	300
(9) 豪州	318
コラム	334
(10) 米国	336
コラム	355
(11) カナダ	358
コラム	374
(12) 英国	377
コラム	394
(13) フランス	395
コラム	407
(14) ドイツ	409
コラム	422
(15) ロシア	424

#### 参考資料集

1. 世界の国際観光の規模の推移（1950年～2009年）	444
2. 訪日客数上位50カ国・地域の観光関連データ	445
3. 年別訪日外客数、出国日本人数、国際旅行収支（IMF方式）の推移	447
4. 主要国・地域の公的観光宣伝機関の概要	449
5. 観光立国推進基本法および基本計画	456

# 第一章 世界の国際観光の動向



## 1. 世界全体の国際観光の動向

世界観光機関 (UNWTO)<sup>1</sup>によると、2009年の国際観光客到着数は、世界的な景気低迷が影響し、2008年よりも3,838万人少ない8億8,047万人（前年比4.2%減）に落ち込んだ（図表1-1-1）。2003年以来6年ぶりの減少を記録した。2000年以降、国際観光客到着数は、米国同時多発テロが発生した2001年（同0.3%減）と、アジアを中心にSARS（新型肺炎）が流行した2003年（同0.9%減）にも前年比で減少したが、2009年の減少率はこれらの年を超えた。

2004年から2008年までの過去5年間、国際観光客到着数は増加し続け、2008年も米国の証券会社リーマン・ブラザーズの破綻（9月）を発端とする世界金融危機に見舞われたものの、前年比2.0%増（9億1,885万人）のプラス成長となり、2年連続で9億人台を維持した。しかし、2009年は状況が一転した。

2009年の国際観光客到着数の減少は、世界的な景気の低迷が主因であるが、原油価格の高騰<sup>2</sup>による燃油サーチャージの相次ぐ値上げや、2009年4月から7月まで世界的に感染が拡大した新型インフルエンザの影響も、国際観光客到着数の減少に追い討ちをかけた。

国際観光客到着数の伸率を月別に見ると、2008年8月から始まった落ち込みは2009年3月（前年同月比12.8%減）に底となり、以後減少率は縮小、2009年10月からは増加に転じた。

図表 1-1-1 世界の国際観光客到着数の推移（2005年～2009年）

年	2005	2006	2007	2008	2009
人数 (万人)	80,150	84,730	90,052	91,885	88,047
伸率 (%)	4.7	5.7	6.3	2.0	-4.2

資料：世界観光機関 (UNWTO) 暫定値 (2010年6月現在)

1：第1章「5. 観光関係の国際機関」を参照

2：2008年初頭には1バレル＝100米ドルを突破し、2008年7月には1バレル＝140米ドル台の最高値を記録した。

2009年の国際観光客到着数を地域別に見ると、唯一の成長地域となったアフリカを除き、各地域とも前年と比べて減少した。ヨーロッパは4億6,001万人（前年比5.7%減）、中東は5,320万人（同4.9%減）、米州は1億4,010万人（同4.6%減）であった。アジア・大洋州は1億8,161万人（同1.3%の微減）に留まり、アフリカは4,556万人（同2.9%増）を記録した。2009年の国際観光客到着数の前年比減少数（3,838万人）のうち、ヨーロッパは71.9%（2,761万人減）を占めた。世界全体の国際観光客到着数に占める割合も、ヨーロッパは前年比0.9ポイント減の52.2%に留まった。ヨーロッパは世界の各地域の中で、世界的な景気低迷の影響を最も大きく受けた。その他の地域の割合は、多い順に、アジア・大洋州20.6%（前年比0.6ポイント増）、米州15.9%（同0.1ポイント減）、中東6.0%（同0.1ポイント減）、アフリカ5.2%（同0.4ポイント増）であった。ここ数十年来、ヨーロッパと米州の割合が漸減し、アジア・大洋州、中東、アフリカの割合が漸増する傾向にある。ただし、中東の国際観光客到着数は、2007年に前年比14.6%増、2008年に同19.3%増と2年連続で二桁増を遂げたが、2009年は一転、同4.9%減となった（図表1-1-2）。